

研究論文

和装における袴の存在意義：
市場の現状とマンガ分析、機能性検討、そして新たな可能性を探る
佐藤真理子* 熊谷伸子* 小出治都子**

New Potentials of the Japanese “Hakama” :
Investigating the Current Market, Manga and Functionality

Mariko Sato Shinko Kumagai Chitoko Koide

要旨

袴は、腰部と脚部を覆い紐で腰に結びつける形の和服の一種で、日本書紀にも記載のある本邦の伝統的民族衣装である。本研究では、袴の再評価と新たな展開を目指し、市場の現状調査、マンガ分析、機能性検討を行った。市場調査の結果、現代の袴に包含される衣服は多岐にわたり、その着用目的も異なるため、分類・定義確認と、各々の流通構造の明確化を要する現状が示された。マンガ分析においては、袴着キャラクターの登場するマンガは一定数刊行されており、主なキャラクターは「武士・侍」と「学生」であった。現代の若者の袴着シーンでは、日本の伝統文化の再認識につながる表現がなされていた。機能性検討の結果、温熱的快適性・姿勢保持性・下肢の自由度において、袴は高い機能性を持つことが明らかとなった。和装の主流たる着物（長着）が、その着法から、ハレの場のみの限定的な衣服、日常生活から乖離した存在となっている現在、袴は、日常着にもなり得る機能性と快適性を備え、伝統文化の継承者、クールジャパンのアイコン、新しい和のモードとしての可能性を有することが示された。

(キーワード： 袴：Hakama、和服：Kimono、伝統：Tradition、クールジャパン：Cool Japan、マンガ：Manga、機能性：Functionality)

1. はじめに

袴は、前後2枚の台形状の布を縫製した構造で、腰部と脚部を覆い、前布の襷、後布の腰板、前後二重に締める紐等の特徴とする和服の一種である。古くは神代における“穿裳（はきも）”から転じたとされ、日本書紀にも記載のある、本邦の伝統的民族衣装である。この袴を、日本発のクールなファッションとして広く世界に発信することを目指し、その端緒として、本研究では、袴の市場に関する現状調査、マンガにおける袴のイメージ分析を行い、さらに、袴が、日常着にもなり得

る、着心地の良い機能的な民族衣装であるというエビデンスを通して、新しい和のモードとしての可能性を示す。

2. 現代の袴の分類と市場における現状

かつて2兆円産業と言われた着物関連産業は、2012年には2,960億円まで減少、翌2013年は底打ちから微増に転じ3,000億円台まで回復したものの、2014年には前年比94.9%の2,855億と微減であった。2015年は、前年対比101.4%の2,895億円になると予測されている¹⁾。このような市場規模の縮小は消費者の着物離れを示すものと考え

* 文化学園大学 ** 立命館大学

られる。2015年3月に実施された調査²⁾によれば、20代女性の52.4%、30代女性の45.7%が、着物を1着も保有していないことが明らかとなった。着物を年に数回着るという着用頻度の高い人の割合は、20代女性15.8%、30代女性11.7%、40代女性9.5%、50代以上14.6%と、どの年代においても少なく、また、着用場面は冠婚葬祭という回答から、着物が日常からかけ離れた存在となった現状が浮かび上がる。

このような和服産業の衰退について、様々な分析がなされ^{3, 4, 5)}、問題点として着物産業の多段階分業システムが指摘されている。しかし、どの報告にも袴への言及はない。総務庁統計局「家計調査年報」の衣料消費の章においても、和装、きもの、帯の分類はあるが、袴という項目はない⁶⁾。袴の流通構造は不明で、生産量データは公的に明らかでない。即ち、袴は、和装の一つと定義されながら、その現状は把握されていないのである。これは、現代の“袴”に包含される対象が多岐にわたるためと考えられる。袴という分類にあっても、その着用場面により果たす役割は異なり、形状が同一でも着用目的が全く異なるものが混在しているのである。

そこで、本研究ではまず、袴の着用場面による分類を行った。現在、世に流通する袴として、卒業式等での女袴、武道における競技者のウェア、神社における神主巫女の装束、和食料理店での店員のユニフォーム、結婚式や葬儀での礼装、雅楽舞踊等伝統芸能における演者の装いなどが挙げら





れる(表1)。本稿では、卒業式での女袴と、武道におけるウェアの2種について、聞き取り調査を行った。

2-1 卒業式での女袴に関する聞き取り調査

「株式会社丸昌」常務取締役鹿島氏、「西善商事株式会社」営業部課長中村氏、へのインタビュー、ならびに「大学生協京阪神北陸統合事業部」、「生活協同組合連合会大学生生活協同組合東京事業連合」への問い合わせを行った。

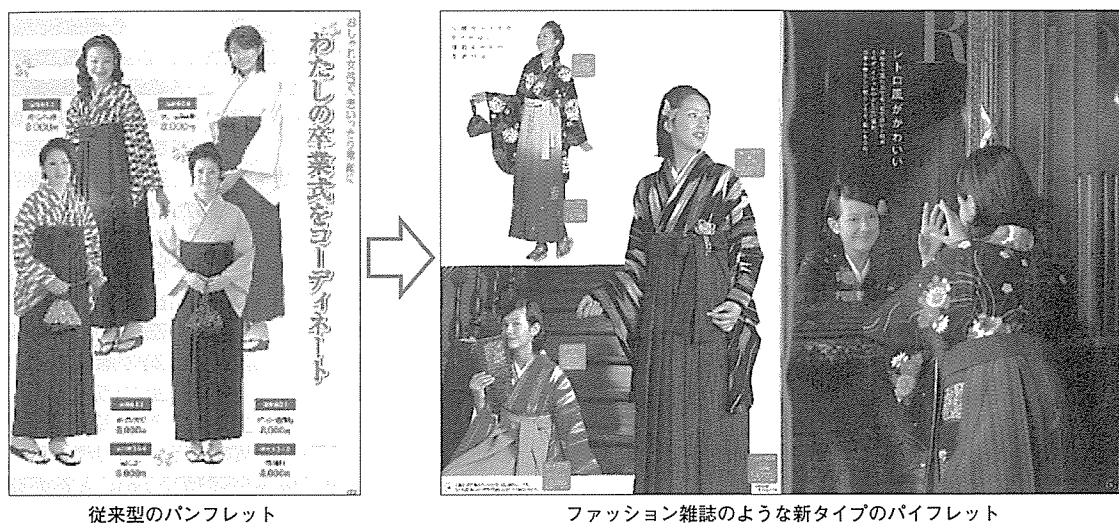
株式会社丸昌(以下、晴れ着の丸昌)によれば、卒業式に着用する目的で、個人が呉服店において袴を購入する例はほとんどないとのことである。流通形態としてはレンタルが主であり、製作数量の把握はないものの、大学生協京阪神北陸統合事業部によれば、2015年3月現在、5億6,531万円のレンタル売上高があり、また、生活協同組合連合会大学生生活協同組合東京事業連合によれば、2015年の卒業時に18,550名の学生が袴を着用したとのことである。卒業式用袴の製造卸大手である京都の西善商事株式会社では、少子化を睨み、幼稚園や小学校、中学校の卒業式での着用機会を示すなどその販路を広げ、年間15,000~20,000着の袴を生産しているとのことであった。また、製造卸として2~5月にかけて新作を発表し、小売業を対象とした新作展示会も毎年開催しており、日常着と同様に流行もみられるという。しかし、そのサイクルは年単位で、長期間流行している例としてほかし模様と刺繍が挙げられた。なお、

表1 袴の着用場面による分類

着用場面	卒業式	武道	神道	飲食店	冠婚葬祭	伝統芸能
着用例						

晴れ着の丸昌が初めて、ファッション雑誌風に袴のカタログを作成し（2004年）、卒業式における女子学生の袴着用に一役買ったとされる（図1）。レンタル袴の普及の始まりは明らかではないが、聞き取り調査において「ハイカラさんが通る」などのメディアによる影響は少なくないとの声が聞かれた。素材に関して、西善商事株式会社中村氏によれば、昔はウールであったが、レンタルが主

であるため、洗濯や取扱いの簡単なポリエステルが多く使用されるようになったとのこと、生地は反物ではなく、洋服と同様、ロールの布地から製作され、国内や海外（多くは中国）の工場においてミシンで作られることが多いとのことであった。袴の生地は二幅（120～140cm）で、1ロールから約12人分の袴が出来るそうである。



従来型のパンフレット

ファッション雑誌のような新タイプのパンフレット

図1 晴れ着の丸昌のカタログにみる袴

2-2 武道袴に関する聞き取り調査

「全日本剣道連盟」事務局元職員資料担当O氏、「全日本武道具協同組合」前理事長森氏、へのインタビューを行った。袴を競技者のウェアとして使用する武道には、剣道、弓道、合気道等があるが、本内容は主に剣道袴を対象としている。

武道袴は、染物屋（藍染屋）が伝統的に作り継いできたもので、撚糸・染色・織・縫製まで手掛けており、有名なのは武州紺（栃木・群馬・埼玉）と遠州紺（三河・豊川・浜松）、古くは一貫生産の形態が主であったが、生地を仕入れて仕立てのみを行う事業所もあり、どちらにしても、生産量や売上等の市場規模を示すデータは把握されていないとのことであった。剣道の一般有段者の多くは藍染木綿製袴を使用しているが、子供向け、学

校教材用の袴の素材は合織がほとんどで、安価なポリエステル製が、これまでは中国、近年では東南アジアから輸入されている。藍染木綿は、昭和40年代には和服同様の小幅反物であったが、現在は広幅のロール状。ミシン製作がほとんどで、ごく少量、剣道型用・居合用に手縫いの袴も製作されているとのことであった。新作発表や展示会はなく、年ごとのデザイン流行は特に見られないようであった。

3. マンガにおける袴分析

日本発の有力なソフトパワー「マンガ」は、今や“MANGA”として海外でも市民権を得ており、日本文化を広める上で大きく貢献している。海外

で認知度の高い日本のマンガとして、“Naruto（ナルト）”、“Bleach（ブリーチ）”、“Rurouni Kenshin（アニメ版ではSamurai X）（るろうに剣心）”などが挙げられ⁷⁾、これら全てにおいて、袴を身に着けた人物が活躍する。2010年にクールジャパン室が経済産業省に設置され“クールジャパン推進会議”が開催される等、日本の文化や伝統の国際展開を目指し、世界に向けてソフトパワーを発信する重要性が認識されている現在、マンガのキャラクターたちが身に着けている袴は、日本発のクールな民族衣装として打ち出すのにとってつけと考えられる。本稿では、マンガに描かれた袴着キャラクターの分類と考察を行った。

3-1 マンガにおける袴着キャラクターの分類

Japan Expoが初めて開催された2000年から2014年までの15年間、日本で刊行されたコミックスの新刊点数は165,357冊（雑誌扱い・書籍扱い合計）であった⁸⁾。2003年以降、毎年10,000冊以上のマンガがコミックスとして刊行されている（図2）。これら刊行されたコミックスの中で、袴を着装した主要キャラクターが描かれたものをカウントした。対象は、2000年以降に刊行された少年・少女・青年・女性向けのマンガ単行本で、連載継続中のものも含めた。ただし、4コママンガ、短編マンガは除いた。WEBマンガの場合、長編マンガで紙媒体のマンガ単行本として刊行さ

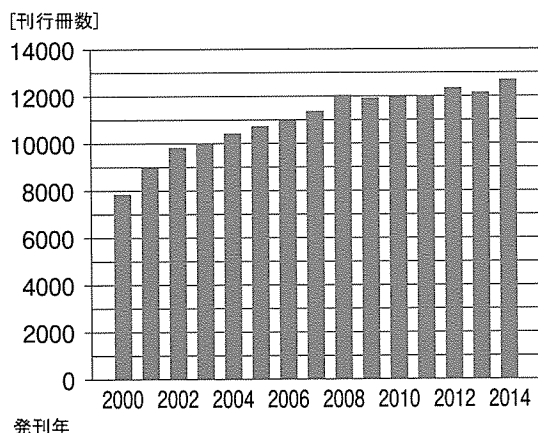


図2 日本で刊行されたコミックス新刊数の推移 ⁸⁾より作成

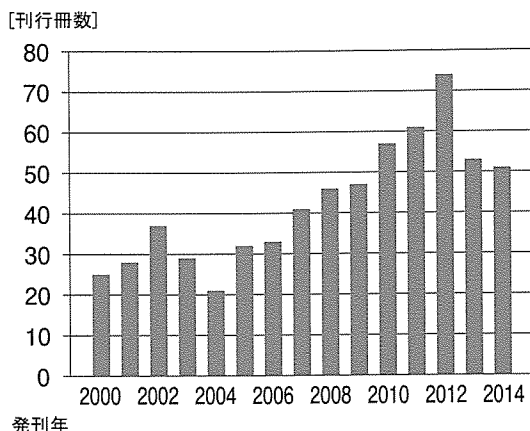


図3 袴着キャラクターが登場するマンガ単行本数の推移

れたものだけに限り数えた。その結果、袴着キャラクターが登場するマンガのコミック数は15年間で53タイトル、総数は635冊であった。その推移を図3に示す。毎年刊行されるコミックス総数からすれば、袴着キャラクターの登場するマンガの割合は0.4%程度と決して多くはなかった。しかし、絶えず一定数が刊行されており、需要のあることが読み取れた。

次に、袴着キャラクターの登場するマンガから、キャラクターの分類を試みた（図4）。袴着キャラクターとして最も多かったのは「武士・侍」と「学生」であった。「武士・侍」は、袴を着装し刀を腰に差している、最もイメージしやすい袴姿と考えられる。「学生」については、近代（大正期～昭和初期）の女学生と、現代の高校生（男女共）の2種が着装イメージとして表現されており、後者の、現代の高校生が着装する袴については、剣道や弓道、書道やかるたなど“日本の伝統文化”に関するクラブ・部活の部員が着装する姿が描かれていた。ここで、「武士・侍」あるいは近代の女学生は、袴を着装することがその時代における通例であるのに対し、現代の高校生にとって、袴は日常着ではない。即ち、袴着装が何らかの意味を持つ特別なアイテムとして描かれているとも考えられる。袴を着装することが、現代においてどのように捉えられているか、以下に考察する。

出現率 [%]

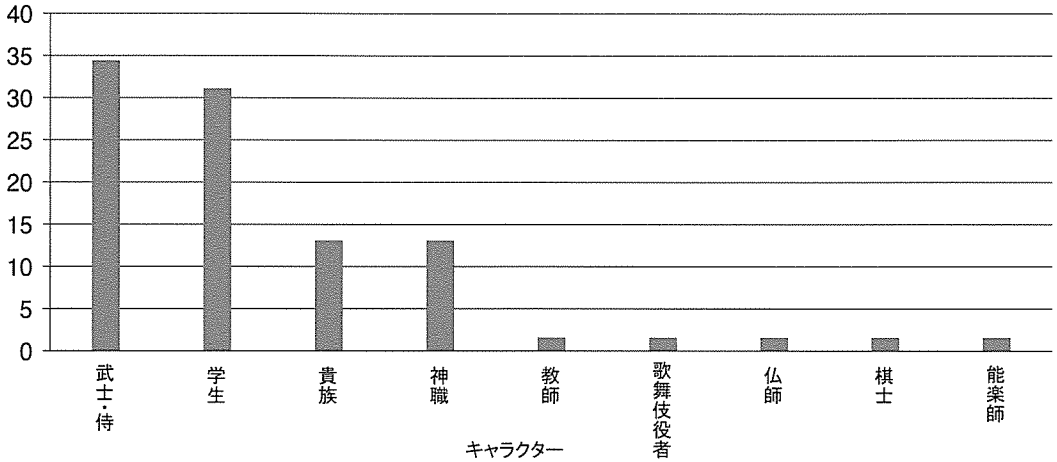


図4 袴着装キャラクターの分類と出現率

3-2 マンガ「ちはやふる」に見る、現代の若者の袴に対する認識

「ちはやふる」は、2007年から講談社『BE・LOVE』に掲載され、現在も連載中のマンガである。この作品はアニメ化され、2011年10月～2012年3月に第1期、2013年1月～6月には第2期が、日本テレビ系列で放送された。また、2016年には映画版も公開予定の人気マンガである。主

人公綾瀬千早が競技かるたのクイーンを目指し、仲間と共に奮闘する青春マンガであり、かるたのクイーン戦で袴を着装することから、袴着装の様子が多く描かれている。初めて袴について描かれた場面は第11首である。呉服商の娘である大江奏が、弓道部に入部し、袴姿でランニングに行くシーンで「袴でランニング?!そんなはしたないことできない」と驚く。また、かるた部を結成しようとしている千早たちに、かるた部なのになぜ

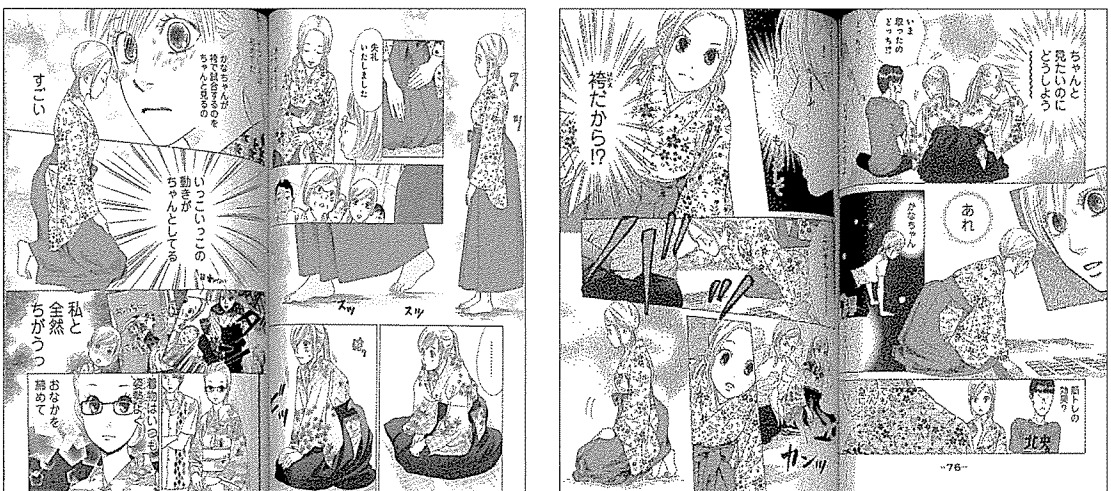


図5 マンガ「ちはやふる」における袴着装シーン⁹⁾

袴をはかないのか、と奏が尋ねるシーンでは、「高いから」「着るのが面倒」と答えられ、着物業界の低迷を嘆いて泣く。このように、着物や袴で激しい動きをすることは“ありえないこと”であり、同時に「面倒」で「高価な」ものであるとの認識から、敬遠されている実情が示される。その後、かるた部として活動するようになった千早は、かるた大会で袴を着装し、第32首で、「袴だから」「いっこいっこの動きがちゃんとしてる」「すごい」と驚く(図5)⁹⁾。即ち、袴着装の実用性を知るのである。「姿勢よく」「おなかを締めて」動きが良くなり、かるたを取る動作の綺麗さに触れる様子が描かれている。それは、千早本人だけでなく、周りの観客の目にも同様に映り、「きれい」「ステキ」「あんなふうに分けるなら私だって…」「やっぱりいいわね、着物は」という感想がもたらされる。

このように「ちはやふる」では、当初「高い」「面倒」と敬遠された袴を、実際に着装することで、その実用性・機能性が理解され、現代の若者における袴への認識が変わっていく様子が表現されている。

4. 袴の可能性： 快適で機能的な民族衣装

現在、和服の主流たる女性の着物(いわゆる長着)は、ハレの場でしか着用されない儀礼的衣装(costume)であり、日常着(clothing)ではない

注1)。著者らはこれまで、現代女性の着物の着付け、即ち、胸高に帯を締め、着崩れを排し、ゆるみ、たるみ、しわをなくして1本の棒のようにスリム化させる着装法が、着装者の生理・心理反応に及ぼす影響を検討し、この“標準着装”が継続する限り、着物の日常着としての定着は難しいことを示してきた^{11), 12)}。着物がハレの場でしか着用されない儀礼的衣装となってしまった背景には、その着心地の悪さ、不便さが挙げられる。明治～昭和にかけての和装から洋装への推移の過程で、科学的・衛生的・活動的とされた洋服に対し、和服改良の試みが数多く行われた。中でも袴は、女子服装の改良の柱として大きな期待をかけられていた。東京医学校の教師・医師で、いわゆるお雇い外国人の一人であったエルヴィン・フォン・ベルツは、1889年(明治22年)の講演において、袴着用を功を説いた¹³⁾。経済学者・教育者として知られた森本厚吉は「婦人が袴を使用するに到りしは、近來の事であるが、之れが為めに、不便なる和服も大に活動の便を得て(後略)」と述べ¹⁴⁾、新聞記事等においても「我国女子の衣服は体育に適さず又衛生上、便宜上、不適當なる点多ければ、かたがた改良を加へざるべからず¹⁵⁾」「その改正の要は(中略)袴をうがたしめんというに在りてこは衛生上、經濟上及び作業上至大の便利なり¹⁶⁾」とあった。袴は、着物の持つ様々な欠点を持ち合わせず、和服文化を将来へつなげる可能性を有していたのである。それが成功しなかったのは、一つには制服統制令(1941年)やモンペの普及

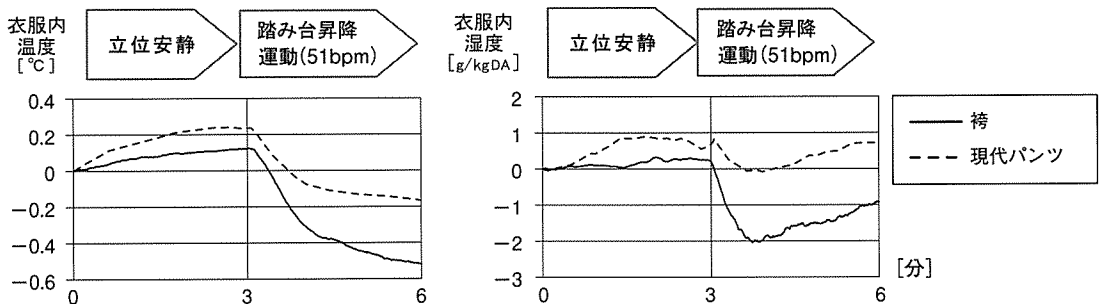


図6 暑熱環境下での衣服内温度(左)と衣服内湿度(右)の変化量(n=8)¹⁸⁾より作成
衣服内湿度の単位は乾燥空気に対する重量絶対湿度

という時代背景、もう一つには、堅苦しい女教師の装いというイメージ¹⁷⁾ によると考えられる。

今後、袴の復権をはかり、その再評価を目指すには、袴が着心地の良い機能的な衣服であるという科学的根拠を得る必要がある。以下にその可能性の一端を示す。

図6は、暑熱環境下 (33℃・60% RH)、若年女性8名 (21.4±0.5才、159.5±3.5cm、51.3±5.1kg) に袴と現代パンツを着用させた際の、衣服内温湿度計測結果である。安静3分・運動3分における腹部前突点での値は、温湿度共、袴で低く、特に運動時、顕著に低下する傾向が示された。これは、“投げ” (脇の開口部) (図7) から入る気流と、袴の有する多くの布地がもたらす“ふいご

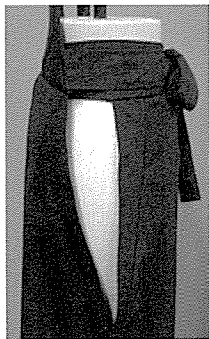


図7 袴側面における“投げ”(脇の開口部)

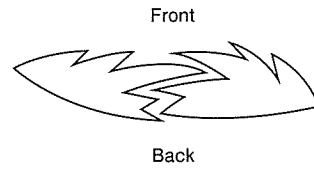


図8 袴裾における断面図
(前面に、左右各5本、計10本の“襷”がある)

作用”^{注2)} によると考えられる。後者については、袴の前面、左右に各5本ずつ、計10本の“襷”が存在し (図8)、この“襷”に多くの布地が折りたたまれ、着用者の動作により袴内の気流が攪拌されて、運動時の温湿度低下を招いたと考えられる²⁰⁾。図9は、寒冷環境下 (15℃・50% RH) での衣服内温度計測結果である。若年女性5名 (21.6±0.5才、156.2±1.9cm、49.0±3.0kg) において、安静時の身体各部位の値 (寒冷下で30分間安静後の5分間平均値) を比較したところ、袴は現代パンツに比し、腹部前突点、殿部後突点、大腿前面中央にかけて高い衣服内温度を示し、下腿前面中央の値は低かった。上述の“襷”の存在により、体幹部を覆う布地が多く、寒冷下でも体幹部とその近傍の暖かさを保つことができる衣服であると示された。

図10は、若年女性6名 (20.0±1.2才、159.0±3.1cm、50.3±4.2kg) に袴と現代パンツを着用さ

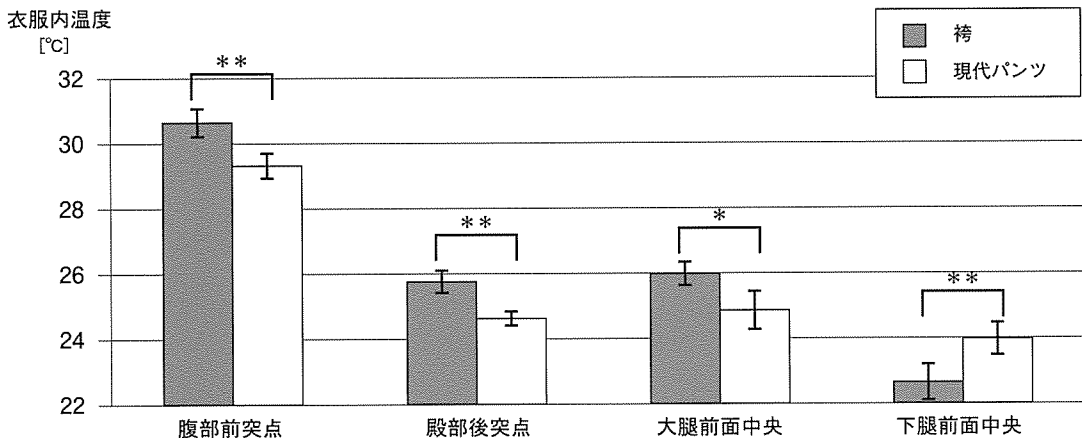


図9 寒冷環境下での身体各部位における衣服内温度 (n=5)²¹⁾より作成
*: p<0.05、**p<0.01 (対応のあるt検定による)

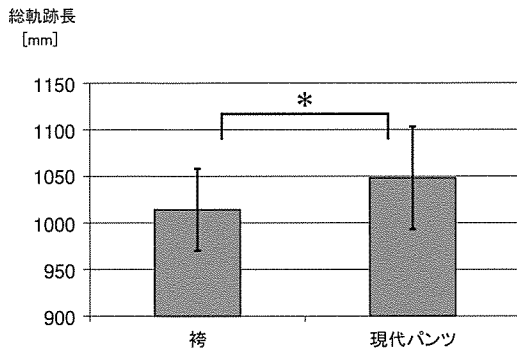


図 10 立位時の重心動揺(総軌跡長) (n=6)
* : $p < 0.05$ (対応のある t 検定による)

せた際の、立位時の重心動揺計測結果（開眼60秒間計測）である。袴着用時、現代パンツに比べ、身体の動揺の少ない様子が示された。また、立位で最大開脚した際の、両足の第一指間距離を「開脚幅」として計測した（図11）。下衣を着用せずに最大開脚した値を100%とし、袴と現代パンツを着用させた際の値と比較したところ、袴で $94.5 \pm 3.4\%$ 、現代パンツで $90.2 \pm 4.5\%$ と、袴着用時の下肢の動きやすさが示された。

以上より、袴は、“投げ”と“襷”という他には

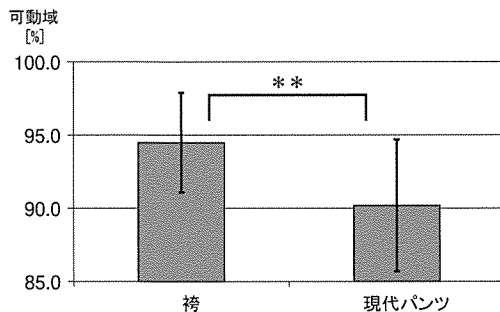


図 11 裸体時を100%とした着衣時可動域(開脚幅) (n=6) ** $p < 0.01$ (対応のある t 検定による)

ないデザイン的要素を持ち、暑熱下での運動時に下肢が涼しく、寒冷下では体幹部が暖かい、優れた温熱的快適性を持つことが明らかとなった。また、姿勢保持性・下肢の自由度の大きさにおいても、高い機能性を有する可能性が示された。今後、

袴の着心地に関するエビデンスの集積を行うことで、快適で機能的な民族衣装としての発信が可能になると考えられる。

5. 結び

日本が有する文化資源としての袴の重要性を社会的に共有するにあたり、先ず、袴の分類・定義確認と市場分析、流通構造の明確化が求められよう。袴に包含される衣服は多岐にわたり、その着用目的も異なる。それぞれの袴に関し、形状・素材・着用目的から分類を行い、各々の流通構造を明らかにし、各業界の問題点を提起することで、市場情報の組織的な活用が可能となり、袴の新たな展開へ向けたヒントを見出すことができるのではないか。

袴は、古い価値のみに縛られた過去の衣服ではない。日本発のソフトパワーであるマンガにおいて、袴着キャラクターは大いに活躍の場を得ている。コミックマーケットやアニメコンベンション、ジャパンエキスポ等の参加者においては、マンガ・アニメの登場人物に扮したコスプレイヤー達の中に、袴姿の若者が多く見られる（図12）。袴は、ある種のコスチュームプレイのアイテムのような感覚で若い世代に受け入れられている。

袴は、洋服にはないデザインの特徴を持ち、そ



図 12 海外コミックマーケットにおけるコスプレイヤーの袴姿

の温熱的快適性・運動機能性は着目に値する。和服文化の衰微をもたらした要因の一つに、現代の着物（長着）の着装法が、夏暑く冬寒く、身体の動きを阻害する、現代人の日常生活から乖離したものであることも挙げられる。袴は、着物の持つ様々な不具合を持ち合わせず、日常着にもなり得る、新しい和装・新しい和のモードとしての可能性を有すると考えられる。

袴は、伝統文化と現代のポップカルチャーの交点に位置し、伝統文化の継承者、クールジャパンのアイコン、未来の和装の一つの柱となり得る。快適で機能的でクールなジャパンファッション、新しい和のモードとして海外への発信も可能な民族衣装と考えられる。2015年5月に開催されたミラノ国際博覧会において、日本館の「美濃吉」の仲居の装いは袴であった²²⁾ (図13)。これは、日本文化を象徴するものの1つとして、袴が認められ受け入れられていることの証左と言えよう。

本研究により、袴の持つ多様な価値が評価され、和装におけるその存在の重要性が広く認識されることを期待したい。



図13 ミラノ国際博覧会日本館における「美濃吉」の仲居ユニフォーム²²⁾

本研究は、科研費26350082（基盤C：袴の機能性研究—世界に発信する“Hakama is cool”—、研究代表者 佐藤真理子）の助成を受けて行った。

謝 辞

インタビュー調査にご協力いただきました、株式会社丸昌常務取締役鹿島様、西善商事株式会社営業部課長中村様、大学生協京阪神北陸統合事業部様、生活協同組合連合会大学生協同組合東京事業連合様、全日本剣道連盟事務局様、全日本武道用具協同組合前理事長森様、画像・写真の使用にご許可をいただきました株式会社講談社様、帝人株式会社様、撮影にご協力いただきました賀茂御祖神社（下鴨神社）様、囃子方（望月流）望月様、に感謝申し上げます。

注1) costumeとclothingの使いわけについては、Cunnington¹⁰⁾の説に基づく大丸氏¹⁷⁾の論に倣う。大丸氏は、「女子大学の謝恩会等で用いられる和服は、日本人の衣生活の流れの外に別置されているものであって、もはや、生活的clothingではなく、象徴的性格の強い祭祀的costumeにすぎない（後略）」と述べている。

注2) ふいご作用とは、人体と衣服との間に強制的な気流が生じ、着衣の放熱性能を高める現象である¹⁹⁾。

文 献

- 1) 矢野経済研究所、呉服市場に関する調査結果 2015、2015、pp.19
- 2) 経済産業省製造産業局繊維課、製造基盤技術実態等調査事業（和装文化のあり方に関する調査事業）報告書、2015
- 3) 中小企業総合事業団繊維ファッション情報センター、繊維統計データ活用ガイド、2002
- 4) 社団法人日本絹業協会、平成19年度生糸・絹製品に関する情報収集事業報告書、2008
- 5) 田中宣子、京都小幅友禅業の衰退傾向分析と将来展望、龍谷ビジネスレビュー、13、pp.35-51、2011
- 6) 総務庁統計局、家計調査年報、<http://www.stat.go.jp/data/kakei/npsf.htm>

- 7) Anime News Network,
<http://www.animenewsnetwork.com/>
- 8) 全国出版協会・出版科学研究所編、2015年版
出版指標 年報、2015
- 9) 末次由紀、講談社、ちはやふる、6、2009、
pp.76-79
- 10) Cunningham, C. Willett, Collins. The Art of
English Costume. 1948
- 11) 佐藤真理子、白根真衣、田村照子、和服着用
が生体に及ぼす影響、日本繊維製品消費科学
会年次大会・研究発表要旨、2010、pp.108
- 12) 佐藤真理子、田村照子、和服着装における帯
位置が重心動揺、筋電図、唾液アミラーゼ活
性に及ぼす影響-姿勢と伝統的所作に着目し
て-、繊維学会誌、70 (6)、2014、pp.126-135
- 13) 大日本教育界雑誌、総集会記事第二、1889年
号外、pp.110
- 14) 森本厚吉、生活問題—生活の経済的研究、同
文館、1920、pp.314-315
- 15) 河北新報、明治33年11月24日付記事、1900
- 16) 河北新報、明治33年12月23日付記事、1900
- 17) 大丸弘、現代和服の変貌II、国立民族学博物
館研究報告、10 (1)、1985、pp.131-232
- 18) 今井結衣、李恩眞、田村照子、佐藤真理子、
アジアの下衣民族服における機能性検討、織
維学会予稿集、70 (1)、2015、2H07
- 19) 日本家政学会、丸善、衣服の百科事典、
2015、pp.26
- 20) Mariko Sato and Teruko Tamura, Thermal
comfort of " Hakama" , a Japanese Ethnic
costume. International Symposium on Fiber
Science and Technology, 2014, PG5-17
- 21) 佐藤真理子、直井美佳、田村照子、袴の機能
性に関する研究、繊維学会予稿集、66 (1)、
2011、1P53
- 22) 帝人HP 展示会・イベントニュース、2015
年4月27日記事、2015